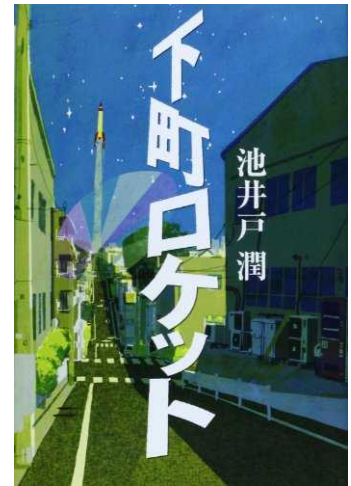


下町ロケットを読んで

最近になって、池井戸 潤の「下町ロケット」を読んだ。ATIS メンバーの方は殆ど読まれているかもしれない。この本を知るきっかけになったのは、テレビドラマ「半沢 直樹」 著者 池井戸 潤 作品 下町ロケットの順でたどり着きました。

この時期遅れ、誠にお恥ずかしい限りであります。しかもこの小説は直木賞も受賞しテレビドラマにもなり有名な小説とか……。 昨年の直木賞の「ホテルロイヤル」エッチな描写もあり楽しく読みましたが。この下町ロケットは痛快な小説で一気に読みました。

話は特許にまつわる中小企業の奮闘物語で宇宙科学開発機構のロケットエンジン研究者の佃 航平が主人公です。彼の開発したロケットが失敗し失意のうちに精密部品の中小企業佃製作所の家業を継ぐことになる。その後ライバル会社で一部上場会社のナカシマ工業から特許侵害で訴えられたり、大企業帝国重工から特許の譲渡を迫られたりするが、社員一同が幾多の障害を乗り越え、そのロケットエンジンの中枢であるバルブシステムを帝国重工に納め、そのロケットは見事に打ち上げに成功する物語である。特許にまつわるコンペティターとの確執、超大企業との戦いなど少し設定に無理があるがそれはそれで結構楽しめた。



また登場するモデルですが、中小企業を助ける正義の神谷弁護士モデルは内田・鮫島法律事務所の鮫島弁護士との事。

池井戸 潤が丹念に鮫島弁護士に取材してこの小説を書いたらしいです。

ATISの講演を鮫島弁護士にお願いしても良いかもしれません。

まだ読んでいない皆様には是非お勧めしたい一冊です。

(総務幹事 丸山 雅夫)